

# シラス船びき網漁業の漁業管理をススメル資源・調査研究

海洋資源担当 齋浦耕二

シラス船びき網漁法(通称パッチ網)は2隻の曳船で大きなパッチ網を引っ張り、潮流に流され、潮目にたまったイワシ類のシラスを主に漁獲しています。この漁法は小松島～阿南の各浜で行われていた地曳網が、船を用いて沖で行えるように改良された漁法から発達したと言われ、その後東海・九州など各地に広まりました。

本漁業でのシラスの水揚げ量は平成7年以降、減少していますが、県内の漁船漁業のなかでは依然としてもっとも漁業生産金額の高い漁業種類です。

そのため、漁業者自らが漁業管理を行い、徳島県地先に来遊する限られたイワシ資源を有効に利用するためのさまざまな調査・研究を行っています。



夜明けを待って一斉出漁する船びき網の曳船



2隻の曳船でパッチ網を曳網して操業



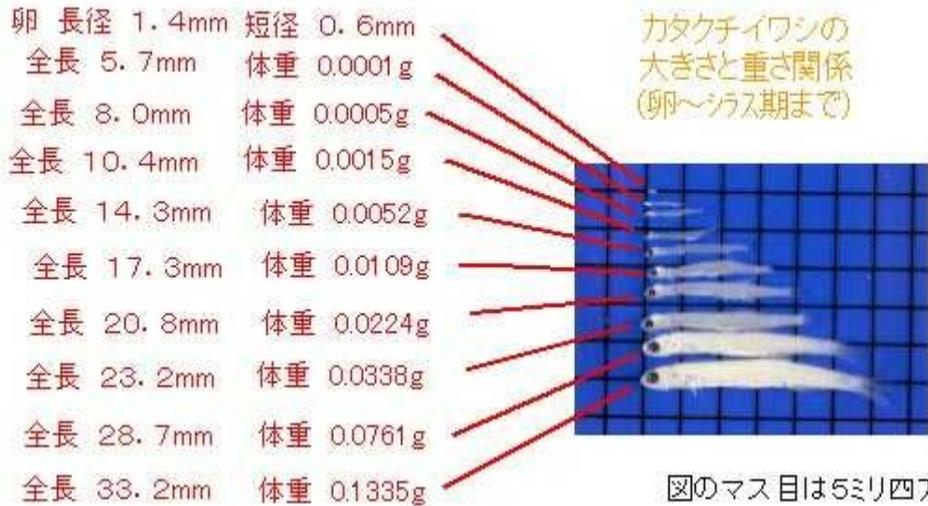
パッチ網末端の袋網から運搬船へ水揚げされるシラス



各漁家の全自動乾燥機で乾燥加工されるシラス

## シラス漁況予測のための海洋観測

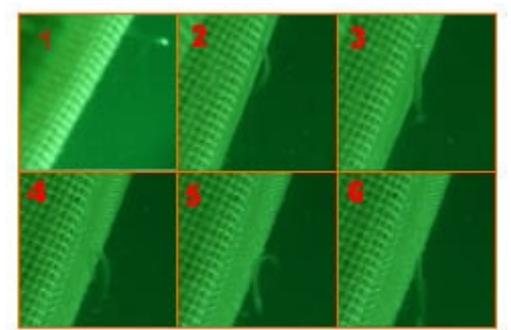
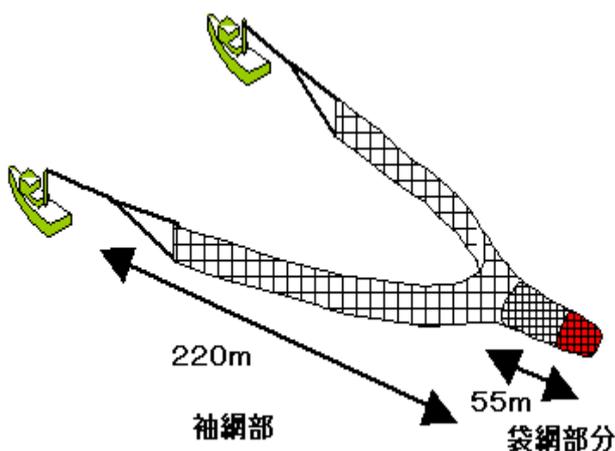
魚は一般に大量の卵を産み、生まれた子は生活史の初期に大量に死亡するのが特徴です。シラス船びき網での漁獲サイズは、ふ化後1~2ヶ月経過し、体表にほとんど色素を持たない全長2~3センチのシラスを主対象としています。徳島沿岸の沿岸定点でプランクトンネットによる卵稚仔調査によりイワシ類の産卵の多寡と仔魚の生き残りを把握するとともに、黒潮流路状況などからその年のシラス漁模様を予測するための海洋観測を続けています。



プランクトンネットを用いた  
卵稚仔観測

## シラス資源にやさしい漁具開発

細かい網目のパッチ網を使用して操業すれば、1網で漁獲されるシラスの量は増えますが、チリメンに加工しても商品にならない小さいシラスまで漁獲されてしまいます。そのため、パッチ網に入ったシラスが漁獲もしくは網から抜け出すまでの行動を水中カメラで観察するなどして、もっとも資源を有効に利用する漁具への改良を漁業者と共に進めています。



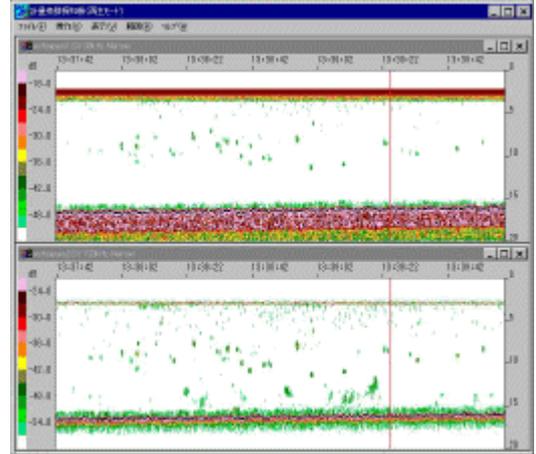
船びき網の袋網末端から逸出する  
カタクチイワシシラス

## シラス漁場形成メカニズム解明のための漁場調査

紀伊水道の西部海域は吉野川、那賀川などからの河川水の流入が多く、シラスが集積・滞留する好条件を備えており、全国有数の好漁場となっています。この海域でのシラスの漁場形成メカニズムを解明するとともにシラス船びき網漁業が資源に与える影響を知るために表中層トロール、計量魚群探知機など最新機器を用いたシラス漁場調査を行っています。



カイト式表中層トロールを用いたシラス魚群の採集調査



計量魚群探知機を用いたシラス資源量調査での魚探反応  
(上段:38KHz 下段:120KHz)